

# 「中世の職人」の世界を想像する

## — 歴博展示とデータベースを活用して —

逗子開成中学・高等学校 片山健介

### 1. 実施学年及び教科・領域

中学生/高校生 社会科・歴史的分野/地理歴史科・日本史 B

### 2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 主題名 「中世の職人」の世界を想像する

(2) ねらい

「中世社会における技術発達」は、中学歴史でも高校日本史でも必ず取り上げられる単元である。しかし、授業において多様な姿をもつ「中世の職人」像を詳細に扱ったり、生徒が考えたりする時間はなかなか確保できないのが現状ではないだろうか。本実践は、普段接することのあまりない絵画資料や考古資料を通じて、「中世の職人」の実像をじっくり考えることを目的とした。

(3) 博物館との関連

#### ①実践について

本報告の実践は、本校の土曜講座の一講座「そうだ！博物館へ行こう！！」(全7回)のなかで行った。土曜講座は、中学校第1学年～高等学校第2学年の希望者が対象で、本講座は各博物館の特別展等を見学することに主眼をおいたものである。すでに中学レベルの歴史を学んだ者と全く学んでいない者とが混在しており、学年がまたがることから実践のレベル設定では毎回苦労している。ただ様々なレベルの生徒がいるにせよ、各回、実際の展示と向きあい、考えさせることに主眼をおいている。

#### ②活用展示

- ・第2展示室「芸能民」コーナー
- ・企画展示「時代を作った技—中世の生産革命—」

#### ③それ以外の活用資料

- ・「職人歌合絵巻」高松宮家伝来禁裏本（歴博データベースより）
- ・「七十一番職人歌合」（『新日本古典文学体系』61 岩波書店より）
- ・「東北院職人歌合」（東京国立博物館HPより） を事前課題として配布

#### ④主な参考文献

- ・図録『時代を作った技—中世の生産革命—』 2013年
- ・網野善彦・横井清著『日本の中世6 都市と職農民の活動』中央公論新社 2003年

### 3. 指導計画 (3時間扱い)

過程	時間	○学習活動 ●学習内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
事前指導		○ 事前課題プリント配布、課題に取り組む (参考・後掲資料I)	■絵画を観察して、読み取ったことを表現している。〈事前課題プリント：思・技〉
当日指導	5分	● 博物館内でのマナー 単眼鏡配布＋使用方法	
展開① 研修室	25分	○ 参加者全員に事前課題 (参考・後掲資料I) のすべての答えを確認する。  ○ 他者の意見をメモにとる。 ● 教員の解説をメモにとる。	□各生徒の答えやコメントを紹介し、参加者全員の関心が持続するよう工夫する。 ■自分自身の答えを的確に表現している。〈発言内容：思〉 □他者がどのように考え、どのような答えを導き出しているのかを知り、自分自身の意見との相違を考えさせる。 □様々な「職人」の姿を紹介する。 →手工業者のみならず、商人、芸能民、呪術師などを含み込むことを伝える。
展開② 第2 展示室	25分	○ 各職人の姿を展示物で確認 ● する。	□事前課題との関連をふまえ、芸能民や呪術師などについて説明する。 □各職人がどのように生きていたのかについて想像することの楽しさを伝える。
展開③ 企画 展示	60分	○ 企画展示「時代を作った技—中世の生産革命—」ギャラリートークに参加する。終了後、自由見学とし、当日課題 (後掲) に取り組む。	□ギャラリートーク参加中はメモをとるよう指示する。 ■他者の話を聞き、よくまとめている。 〈メモ：関・知〉 □自分自身の伝えたい内容について「まとめ」「発表する」作業についてのアドバイスを適宜行う。 ■各資料をよく観察して、まとめている。〈当日課題：技・知〉
展開④ 研修室	30分 程度	○ 当時の「職人」になりきって、 ● 各生徒1分程度で発表する。 最も興味深かった報告を参加者全員で決定する。	■まとめた内容を、的確に表現できている。〈発表内容：関・思〉 □コメントを付ける。コメントできない場合は、「着眼点」に着目し、事後の「調べ学習」をうながす。
事後指導		○ 後日、「プレゼン用プリント」をまとめ、教員のコメントを加えたものを参加者全員に配布し、当日の疑問点を整理する。	□展開④においてコメントできなかった点や重要事項等を中心にまとめる。

#### 4. 実践の概要

参加者合計 14 名（中学校第 3 学年 2 名、中学校第 2 学年 5 名、中学校第 1 学年 7 名）に対して行った。事前に「職人歌合」などから職人の絵画資料を抜粋したものを配布し、課題に取り組ませておいた。当日は、その課題に関する解説、第 2 展示室における中世の職人や芸能民に関する解説を行った上で、企画展示「時代を作った技」を見学した。その際には、一般向けに行われていた村木二郎歴博准教授ならびにつくば国際大学関周一氏によるギャラリートークに参加した。その後、中世の職人の具体像をつかんだ上で自由行動とし、当時の職人像をふくらませるための当日課題に取り組ませた。再集合し、一人一分程度のプレゼンを研修室において行い、それぞれの発表について意見交換を行った。後日、事後プリントの作成・配布を行い、当日の動きを振り返った。

#### 5. 成果と課題

以下に各課題の生徒の取り組みと成果・課題について述べておく。

(1) 事前課題の取り組み紹介（生徒が書いた内容そのままとした。紙幅の都合で解答の多くを省略した。）（\*印はまとめ）

- ⑥小原女 →薪売り、酒屋さん、？、わらなどを売っている人、頭にわらみたいなのをおき運ぶ人、ほしぐさを運んでいる、薪みたいに燃料となる木を売る人、米俵を売る人、わら売り、わら業者
- ⑦土器造 →魚売り、とうふ売り、荷運び職人、塩を売る人、油売り、すしを運んでいる、料理をつくっている(めん類?)、お茶をつくっている、薬草を売る人、魚屋、山菜売り、出前、肥料売り
- ⑧一服一銭 →茶人、茶づくり職人、茶を作る人、薬屋、お茶をたてる人、花火職人
- ⑫放下 →みくじ、芸人、芸者、歌を詠む人、おもちゃ売り、ささみみたいなものに短冊をつけてねがいごとを納める人、宗教的に？願いを叶えますよ～とってそうなる人、笛を売る人、何かを討とうとしている人、願いかなえ屋、おふだ書き
- ⑬田楽 →へび職人、能、弓職人、舞を踊る人、弓を作る人、？、大道芸人、猿楽師
- ⑯博打打ち →刃物を研ぐ人、大工、包丁とぎ、かつおぶしをけずる人、木材にする人、しょうぎのばんを作っている人、身分の低い人、とぎ師
- ⑰巫女 →布をそめる人、僧、お坊さん、法師、薬を作っている人、占い師、かなり偉い人、和尚さん、陰陽師

\*生徒は自由に思いついた答えをそのまま書いていた。本事前課題の目的は、多様な職人像の存在に気づいてもらうことにあった。その意味では、詳しく学習したことのない職人達をとりあげること、絵画資料から最大限の情報を引き出し、考え、適切な職人を推測する、という流れは非常に良い取り組みであった。そのように自分自身で考えた知識は当日の展示見学の際の良い導入として位置づけられた。

## (2) 事前課題シートの成果と課題

課題作成時、生徒たちに伝えたかったことは以下の点である。

- ①「中世の職人」は、「手工業者」のみならず「狩猟民」「芸能民」「呪術師」などをも含み込んでいること
- ②「職人歌合」という絵画資料から読み取ることのできる情報がたくさんあること
- ③今の時代にあっては想像しづらい「職人」の世界を知ること

これらの3点は、生徒とのやり取りのなかで伝えることができた。特に、「職人歌合」の絵画部分のみを詳細に見ることによって様々な情報を引き出せることについては、資料の読み解きという点で、とても有意義な時間となった。また、一概に「職人」と言っても様々な人々を含み込んでいることを伝えられたことは、第2展示室や企画展示を見学する際の重要な導入になったと思われる。

一方、シートについての課題を挙げると、もう少し「職人」の数をしぼり、「なぜそのように考えたのか」といった理由についても記させると、もう少し的確に教員側の意図を伝えることができるように思われた。

なお、『職人歌合絵巻』の画像は歴博データベースから利用した。同データベースを活用することで、洛中洛外図屏風や近世の職人関係資料などから多くの職人を取り上げることが可能であることを付け加えておく。

## (3) 当日課題の内容と取り組み紹介

### 【当日課題シート①「この職人のこの「わざ」がすごいんです】

\*当日は、B5版一枚配布。以下はレイアウトのみ変更し、文言は生徒配布のままとした。

\*君がもしも中世社会に生きていたとして・・・

そして、君がもしも「ある商品」を誰かに売り込まなければならない立場だったとしたら・・・

どの商品を選び、その商品のどんなところの良さを売り込みますか？

なお、以下の二点に注意して、売り込む際の文面を考えて書いてみてください。

①今の価値観ではなく、当時の価値観を想像して、その商品を売り込んでみてください。

②前の時代の技術と何が違うのかを意識しながら売り込んでみてください。

・商品は \_\_\_\_\_

・売り込み文 (以下 空欄略 )

### 【当日課題①】

\*紙幅の都合で3名のみ紹介

B君：商品はすりばち／某月某日、革命は起ころうとしている・・・。そうそれは全国の食卓で起ころうとしている！！その革命は人類が粉末にするという調理法を初めて手に入れたという革命だ！その革命には一人の立役者がいる。その名はすりばちだ！すりばちの活躍は期待以上だ！！君は革命を見逃すな！！いつ買うか、今でしょ！！

G君：商品は漆器／皆さん今までは木をくりぬいて、器を作っていましたよね。なんということでしょう。しかし、今新しい器の作り方を私は開発しました。それは安い木を使用し、柿の渋を高級な漆の代わりとしたのです。それによって今まさに豊かな新しい時代が幕を開けようとしているのです。みなさんもそんな新生活を始めませんか？

N君：商品は桶／この前まではなんと・・・。桶を作るのにすごく時間がかかっていたんだぜ！なんでかって・・・それはね・・・桶っていったら今はうすい木材を縄でしめつけてつくるだろ。それが昔なんか木をそのままけずってつくっていたんだぞ！それじゃ効率悪すぎると思わない～思うだろ。だったら新型桶買おうぜ。技術はすごく発達したな～（笑）

\*課題の注意点①と②の内容をきちんと盛り込めるか否かがポイントとなった。②の前の時代と違う点については多くの生徒が苦労しつつも盛り込んでくれた。事前のギャラリートークに参加したこともあり、「粉末」「漆の量産化」「結桶の登場」など、一般来場者向けの話であったにも関わらず、生徒なりにまとめ、内容に盛り込んでいる点については驚いた。一方で、今の価値観ではなく、当時の価値観で発表を考えるとという問いかけについては、苦労した答えが多く見受けられた。

### 【当日課題シート②】

\*当日は、B5版一枚配布。レイアウトのみ変更し、空欄は略した。文言は生徒配布のままとした。

企画展示「時代を作った—中世の生産革命—」をみて以下の点Ⅰ)・Ⅱ)に答えてください。

Ⅰ) 本企画展示では、様々な職人の作品や技術が紹介されていますが、その中で、最も興味をもった展示物・作品を一つ選んで答えてください。あわせて興味を持った理由も含めて記してください。

Ⅱ) 今回の展示を通して皆さんが感じ取った「中世」のイメージを記してみてください。一体「中世」とはどんな時代だったのでしょか。

### 【当日課題②—Ⅰ・Ⅱ】

\*紙幅の都合により省略

#### (4) 当日課題の成果と課題

課題そのものは、大変な興味をもって取り組んでいた。恥ずかしがりながらも自分なりの文章をほぼ全員が考え出していた。考古資料から読み取ることのできる情報を考えることができた点と教科書等では扱いつらい技術の歴史的な変化を具体的に知り、考えることができた点は、大きな成果である。一方、発表会の進行には苦勞した。それは、はじめて顔をあわせる生徒がほとんどであったためである。今回はそういった点をふまえて、一人の発表が終わるごとにアドバイスを行ってみた。そのため、後の発表になればなるほど、発表の質があがっていった。その結果、はじめに発表した生徒が不利になってしまった。今思えば、はじめに発表した生徒に再チャレンジをうながしても良かった。反省点である。しかしながら、はじめて知り得た歴史的知識を生徒自身の中で解釈し、表現する方法を学ぶ一つの機会を提供できた点は、大変良かったと捉えている。

一方で課題としては、各参加者の根本的な勘違いや見当違いのすべてを教員としての確にコメントできていたかが不安である。もしも指摘できていないと、誤った歴史的知識や認識を助長させる結果になってしまわないか危惧された。また生徒用の発表評価シートがあっても良いと感じた。

なお、生徒の答えはすべて事後課題プリントにまとめ参加者全員に配布した。

#### 6. 私の考える歴博活用案

以上の課題をふまえた上で、以下の活用案を提案する。変更点は以下の通りである。指導案中の変更点については、すべて下線を引いた。

(1) 事前課題については、生徒たちの関心が拡散しないように取り上げる職人の数を絞った方が良い。

七・八例が妥当と思われた。

(2) 本報告は、企画展示を利用したが、以下の活用案は常設展示のみで出来る実践に組み替えた。具体的には展開②の第2展示室では、一人の職人を選び、その職人の「商品を売り込む」という形に変更した。しかし企画展示のギャラリートークのような仕組みはないため、「びんぎさらの体験」や「一服一茶銭に関する古文書解説」などを盛り込んだ。展示物や資史料を通じて、「職人」を具体的に考えることができるようにした。

過程	時間	○学習活動 ●学習内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
事前指導		○ 事前課題プリント配布、課題に取り組む(参考・後掲資料I)	■ 絵画を観察して、読み取ったことを表現している。〈事前課題プリント：思・技〉
当日指導	5分	● 博物館内でのマナー 単眼鏡配布+使用方法	

展開① 研修室	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 参加者全員に事前課題（参考・後掲資料I）のすべての答えを確認する。</li> <li>○ 他者の意見をメモにとる。</li> <li>● 教員の解説をメモにとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 各生徒の答えやコメントを紹介し、参加者全員で関心が持続するよう工夫する。</li> <li>■ 自分自身の答えを的確に表現している。 〈発言内容：思〉</li> <li>□ 他者がどのように考え、どのような答えを導き出しているのかを知り、自分自身の意見との相違を考えさせる。</li> <li>□ 様々な「職人」の姿を紹介する。 → 手工業者のみならず、商人、芸能民、呪術師などを含み込むことを伝える。</li> </ul>
展開② 第2 展示室	45分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>各職人の姿を展示物で確認、体験する。</u></li> <li>● <u>各職人がどのように生きているのかについて想像することの楽しさを知る。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 事前課題との関連をふまえ、芸能民や呪術師などについて説明する。</li> <li>■ <u>教員の話聞き、よくまとめている。〈メモ：関・知〉</u></li> <li>□ <u>「びんざさら体験」「一服一茶銭に関する古文書解説」を行い、イメージをふくらませる。</u></li> </ul>
展開③ 第2 展示室	30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>一人の職人を選び、当日課題</u></li> <li>● <u>シートに発表内容をまとめる。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 自分自身の伝えたい内容について「まとめ」「発表する」作業についてのアドバイスを適宜行う。</li> <li>■ 各資料をよく観察して、まとめている。〈当日課題：技・知〉</li> </ul>
展開④ 研修室	30分 程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 当時の「職人」になりきって、</li> <li>● 各生徒1分程度で発表する。 <u>参加者は評価シートを完成する。</u> 最も興味深かった報告を参加者全員で決定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ まとめた内容を、的確に表現できている。 〈発表内容：関・思〉</li> <li>■ <u>他者の発表を適切に評価した。</u> <u>〈評価シート：関・思〉</u></li> <li>□ コメントを付ける。コメントできない場合は、「着眼点」に着目し、事後の「調べ学習」をうながす。</li> </ul>
事後 指導		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 後日、「プレゼン用プリント」をまとめ、教員のコメントを加えたものを参加者全員に配布し、当日の疑問点を整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 展開④においてコメントできなかった点や重要事項等を中心にまとめる。</li> </ul>

「この職人のこの「わざ」がすごいです！」発表会評価シート

評価者氏名 \_\_\_\_\_ プレゼン者氏名 \_\_\_\_\_ / 20

①前の時代の技術と違う点は明確であったか？

( 1    •    3    •    5 )

②当時の価値観に配慮はあったか？

( 1    •    3    •    5 )

③発表者の態度は適切であったか？

(声、態度、身振り手振りなど)

( 1    •    3    •    5 )

④「買いたい」という気持ちにさせるものであったか？

( 1    •    3    •    5 )

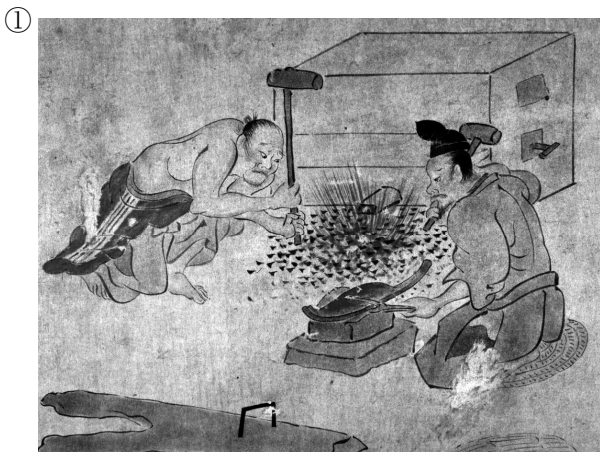


## 資料（I）事前課題シート

### ～中世の職人たち この人どんな人？～

以下は、「職人歌合」（「様々な職人の立場でよんだ和歌を歌合わせ（対）にして、その優劣を論じた作品」）から職人の姿のみを抜き出したものです。「職人歌合」そのもののうち、古い時代のものでは、『東北院職人歌合』（鎌倉時代）が有名です。時代が少しくだと、『七十一番職人歌合』や『三十二番職人歌合』などが有名です。ここでは、各歌合に描かれる職人達を紹介します。「この人どんな人？」の答えをそれぞれ記してください。あわせてそのように考える理由も書いてみてください。

- \* ①・② 「職人歌合絵巻」 高松宮家伝来禁裏本 複製（歴博データベースより）
- ③～⑤ 「七十一番職人歌合」（『新日本古典文学体系』61 岩波書店より）
- ⑥・⑦ 「東北院職人歌合」（画像提供：東京国立博物館HPより）



③～⑤ <省略>

⑥



⑦



⑧



⑨～⑪ <省略>

⑫

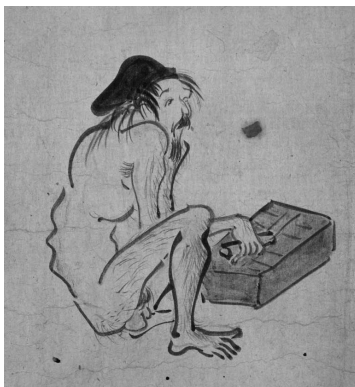


⑬



⑭～⑮ <省略>

⑯



⑰



\*⑥～⑧、⑫、⑬は筆者による模写